

じぶんとまちを変える 4 日間

北九州学研都市 まちづくり ワークショップ

2004.2.19-2.22

学研ワークショップ実行委員会 編

Outline

概要

趣旨

北九州学術研究都市は、大学や研究機関の立地及び産学連携の推進により、若い頭脳の育成の高度化を図り、新たな産業の創出を目指して、大学や研究所そして住宅が一体となった複合的なまちづくりを進めています。こうした中、これらのまちづくりは様々な主体が協働し、連携しながらまちの未来を考えていく必要があります。このワークショップでは、日ごろ交流の少ない、学生、住民、民間、行政などの各主体が、同じ時間と場所を共有し、作業・対話することにより、学術研究都市の未来を語り、まちづくりに関して共に学ぶことを目的とします。

場所

北九州市立大学国際環境工学部（ひびきのキャンパス）

日程

ワークショップ

学 生：2004年2月19日（木）～2月22日（日）の4日間

一般の方：2004年2月21日（土）～2月22日（日）の2日間

シンポジウム

2月22日（日）ワークショップ成果発表会、講師講演会

実行委員会

実行委員長

赤川貴雄（北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科助教授）

北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科学生有志

上田愛子、城戸祐一、肥塚祐美子、田村健一郎、滝本香織、中野宜子、野原春花、春田佳菜、藤永隆史
松下広輝、嶺岸超宏、山崎美里

北九州市学術・研究都市開発事務所

熊埜御堂澄雄、赤尾英司、大貝保志、古賀誠二、野田豊、平田裕二、原田一臣、松尾洋樹

株式会社アーバンデザインコンサルタント

十時裕、井上史一、藤井忠幸

主催 学研ワークショップ実行委員会

共催 北九州市立大学赤川研究室/北九州学術・研究都市開発事務所

協力 北九州市立大学国際環境工学部（ひびきのキャンパス）



Participant

ワークショップ参加者一覧

学生参加者

天野和恵	福岡大学
イ・ウォンイル	西日本工業大学
牛嶋健介	近畿大学
市崎信寛	西日本工業大学
小野良介	福岡大学
川橋真由子	福岡大学
川村真理	北九州市立大学
木戸正典	北九州市立大学
倉掛健寛	福岡大学
幸山泰之	山口大学
櫻木登	北九州市立大学
佐藤範行	北九州市立大学
末永千浦	西日本工業大学
住吉徹	九州大学（九州芸術工科大学）
竹原幸希	北九州市立大学
田尻雅子	福岡大学
徳田勇貴	北九州市立大学院
中野晋治	日本文理大学
長友秀文	北九州市立大学
西尾絵吏	九州職業能力開発大学
永野晴美	福岡大学
野坂保道	北九州市立大学
弘重友就	西日本工業大学
深水佐代子	福岡大学
藤田悠	北九州市立大学
前田直孝	山口大学
榊永加奈子	九州職業能力開発大学
三木哲郎	早稲田大学院
三友奈々	筑波大学院
南川雅大	北九州市立大学
村上加奈	北九州市立大学
村谷武蔵	九州職業能力開発大学
森真由子	九州職業能力開発大学
森山俊之	山口大学
諸見亮輔	九州職業能力開発大学
吉野毅	北九州市立大学
渡邉和昭	九州職業能力開発大学
Camille Dupouy	九州大学
Vera Oppolze	九州大学
Sergio Miguel S.L.Figueiredo	九州大学



一般参加者

池田尚子	福岡市
入江和則	学研開発事務所
岩熊志保	（株）エコプラン研究所
馬田智也	八幡西区
岸原敬	岸原事務所フリーハンド
楠本京子	中間市
佐藤修	（株）オオバ
柴田加奈子	八幡西区
新保美奈子	（株）アーバンマトリックス
中山歳喜	（株）エコプラン研究所
秀島孝	（株）オオバ
比山穰	（株）アーバンマトリックス
福島静子	八幡東区
藤村和寿	ジーアンドエス エンジニアリング（株）
吉谷盛雄	ジーアンドエス エンジニアリング（株）

Timetable

タイムテーブル

学生同士で案を練る

1

2003.02.19

学生同士で案を練る

2

2003.02.20

中間発表
一般の方を交えての議論

3

2003.02.21

最終発表

4

2003.02.22

9	10	11	12
開校式	ガイダンス 学研都市紹介 テーマ紹介	アイス ブレーキング1	
連絡会	WS2 テーマ、コンセプトの決定		
一般 ガイダンス	中間発表	アイス ブレーキング2	
連絡会	WS7 最終発表に向けての準備		
9	10	11	12

13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
レクチャー 幡手京美絵 Clotilde Viellard		現地見学ハイク		休憩	WS1 調査内容の発表 課題カード作成		連絡 ・ 休憩	懇親会	
グループごとの テーマ発表会		WS3 テーマ・コンセプトに沿った提案 中間発表に向けての作業			dinner	WS4 中間発表に向けての作業			
WS5 一般・民間企業の人達を交えて、 学生案をベースとしたアイデアの提案					dinner	レクチャー 松下希和	WS6 最終発表に向けて準備作業		
最終発表・講評会		休憩	基調講演 パネルディスカッション		懇親会				
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22

Theme

テーマ

大学のあるまちの魅力づくりに向けて



学生街・アーバンデザイン・国際化・地域連携

北九州学術研究都市。そこは、大学や研究所、そして住宅が一体となった複合的なまちである。しかし、同じ場所にいながら、同じ時間を共有しこのまちについて考えることは少ない。今回のワークショップは、学生・住民・企業などの様々な人達が学研都市の未来を語り、この「まち」に関わっていく。開発中である学研都市の5年後・10年後はどうなっていくのか？そしてどうあるべきか？このワークショップがこれからのまちづくりの形となる。

緑の保全と自然を楽しめるまち



人間と自然の共存・緑のある暮らし・生物多様性

学研都市は数年前まで、緑が多く存在する場所であった。学研都市は現在開発が進み、かつてあった自然や生態系が壊されている。希少動物を守るためにはどうすればよいのか？「人間・自然・動物の共存」これは現在の社会問題でもある。緑を生かした街にするためにできることは何か？希少動物に必要である湿地を確保し、その空間を提案する。

新しいライフスタイルを楽しめる住宅地のあり方



環境共生・安心安全・多世代・コミュニティ

近年の規格化された住宅街の増加。住宅地に集まって住んでいても「集住」という意味を成しているのか？住宅地に集まって住むことで生まれる人と人とのコミュニティとは？人が自然と集まるような住宅とはどのようなものか？ある区画の中で、何軒かの家を設計し学研都市にしかできないライフスタイルを考え、集住の意味を成す住宅街を提案する。

江川の保全を学研のまちづくりに生かすには



水辺のアメニティ・遊歩道・歴史・河畔生活

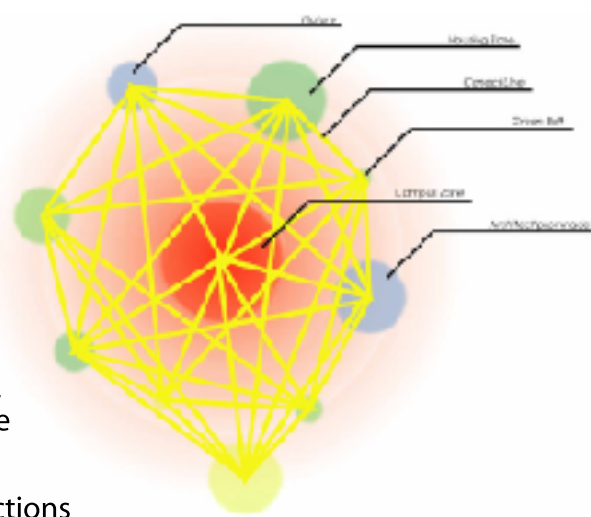
かつては洞海湾と遠賀川を結ぶ水運の大動脈であった江川。学研都市を周遊している江川は、住民の人々にとって、どのような存在であるのか。江川には魚やアヒルが住み、豊かな生態系が存在している。住民の人々にとって憩いの場として集まれる場所となれば、江川はさらに魅力のある場所になるのではないだろうか。川辺空間のデザインを提案することで、人が集まる場所へと変える。

学生主体の新しい考え方により風景づくりの活動を継続的に行なうことで、学研都市の街づくりに深く関わるができる。その結果、学研都市を魅力的にし、特徴となりそれが文化となる。その文化を基礎として学研都市の活性化および地域住民自然とのつながりが形成されると考えた。
僕は、このキャンパスで人と自然と文化に出会う...

Theme is ...



Concept Figure



PLOPOSALS

1. 住民参加型の学研都市形成
Connect inhabitants and Students
2. 住民が自然と対峙する空間形成
Connect the nature and the poeple
3. 世代の交流
Mixing generations by mixing functions
4. キャンパスの魅力創出
The campus attracts new activities

Detail Plan



The University Street

通称大学通りと呼ばれるこの通りには、普段は駐車場に行くためだけのものではない。そこでこの通り沿いにShop&Cafeを設け、また銀杏の並木道にすることで、季節を通じて様々な人々の出会いや別れ、人として成長できる場となることを願う。



The New University Site

森林地帯を破壊して新たな研究施設などを構築する計画を、その森林地帯を残して大池の隣に研究施設を移すことで、大学通りとの繋がり、人々がより活動的になり、また大学通りも活性化する。



Yatsurugi Temple

人と自然、地域文化と最先端の技術、それぞれが対峙していたこの場所に池の上に架かる橋と道路の上を緑の絨毯が覆っているような大きな橋の二つの橋を設けることで、それぞれが互いに共存できることを意図する。



Architecture Street

住宅街と森林を結ぶこの通りにはこの学術研究都市の施設がまるで互いに競い合うかのように集まっている。この通りをArchitecture Streetと呼ぶ。この多くの施設群がキャンパスのファサードとなると同時に住宅街と森林とを繋げるインターフェースの役割も果たすだろう。



Historical Inheritance

この構築的な環境で唯一、文化的宗教的な地域が存在している。舟尾山を中心としてシンメトリーに配置されている二つの神社である。これらの要素を保存活用していくことで、この場所のアイデンティティーを次の世代に継承していくことは重要である。

FIELD SURVEY

北九州学研都市

- ・印象 成長している新しい町
景観が美しく整備されている町
バリアフリーを考慮している
開発による緑地の損失が大きい
町としての賑わいが無い
都市内部・外部の連携が弱い
植物(特に竹)が多い



PROBLEM

- ・地域内の利用者が少ない → 交流が少ない → 交流目的の施設の不足
- ・学研内部の連携が弱い → 交流が少ない
- ・町としての賑わいが無い → 発展途上である

STUDY

「竹は山を食う」と言われている。竹の成長は早く、非常に高くなるため、短い期間で山を覆いつくし、日光を遮断してしまう為、ほかの植物が育ちにくい状態になってしまう。そのため、適度に伐採をし、密生を防ぐことが必要になる。しかし、竹は3ヶ月で10メートルほど生長し、3年で身の締まった成竹となり、さらに、天然の抗菌・浄化作用があり、地中に張る根は、土砂崩れを防ぐなどの利点もある。アジアでは竹は多く使われてきた身近なものであったが、最近は西洋化によって触れる機会が少なくなっている。

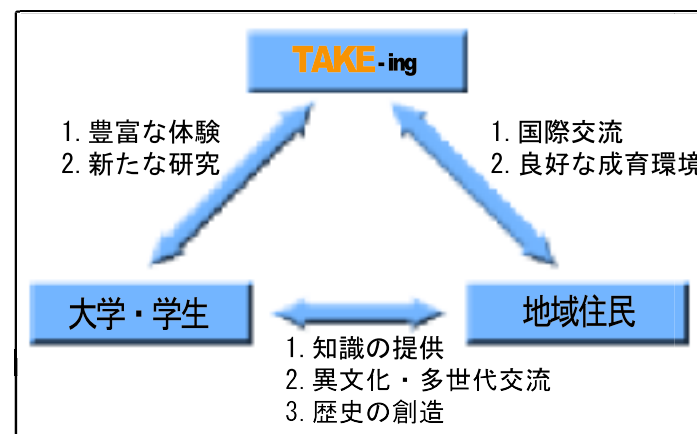
SUGGESTION

TAKE-ing

- 交流拠点づくり
- 新たな産業の創出
- 文化を持った愛着のわく町

TAKE-ingとは、学研内に多くある竹を使い、この都市の活性化を図り、交流拠点を作り、時代が進むことにより新たな産業や文化というものができることを目標とした計画である。学生・大学にとっての利点は多くの経験を得ることができるという点と新たな研究により、新しい何かを生み出せる可能性があるという点で、地域住民にとっての利点は様々な経験をすることができるのはもちろんのこと、子供のための良好な育成環境を得ることができるという点がある。

さらに、大学内の交流として、国際的な交流を行うこともできるはずである。大学側と周辺住民が連携することによって、地域のつながりが生まれ、この新しい町に賑わいが生まれ、新しい文化が発生すると考える。



埴竹



いかだ



竹馬



感謝祭



竹細工



料理教室



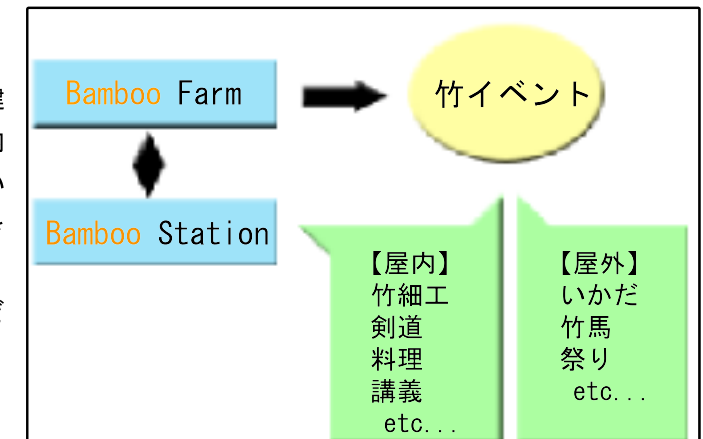
異文化交流



講義

Bamboo Station

学研都市の中心に位置し、建物と広場からなる空間。屋内外のイベントや作業を行いかだや風揚げなどを行うときの集合場所となる。さらに、料理教室や交流会、講義などの会場にもなる。



Bamboo Farm

学研都市内の数箇所に点在する施設。用具の貸し出しなどを行う小屋と埴竹場からなり、周辺住民の交流の場にもなる。埴竹を行うことにより、自分の竹を作ることができる。

TAKE-ing

FarmとStationがあり、住民はFarmで竹を育てて、Stationで加工する。時期によっては、美しくなった江川で遊ぶために、いかだ作りに向けての埴竹や竹細工に向けての埴竹などが行われ、他にも、剣道の竹刀や弓道の弓矢、食器など様々な用途に使われる。住民同士では、育て方についての工夫や竹の利用方法についての意見交換が行われる。そのうち、竹細工が得意な人や竹についての知識の深い人が講師になり、住民や大学生、大学関係者などにレクチャーということも十分に起こりうる。逆に、留学生による異文化交流会などを提供することも可能である。子供の遊びがテレビゲーム中心となっているこの時代で、地域の交流だけでなく、自分で作った竹馬や風で遊ぶことができる。その過程で世代の違う人たちと交流することになったり家族で共同作業を行ったりすることができる。利用して使えなくなった竹は、Stationに保管し、地域のお祭りである感謝祭の時に、キャンプファイヤーとして使用したり、どんど焼きを行ったりできる。残った炭は新しい竹を育てるための肥料にしたり、袋につめて、脱臭剤として、使用することができる。



探しています。

Concept



知的ライフを始めよう！

CONCEPT

学研都市のサーベイをして、大学と住宅地との関係が薄いという印象が強かった。このことより、大学と住宅地(住民)との間の境界線を無くし、大学の研究の対象でもある自然も交流の媒体として活かすことによって、より交流のある住宅地の計画を考える。

Network



NETWORK

住民に大学をより身近に感じれるように、大学と住宅地を結ぶ、小さいセンター(●)を学研都市内の各住区におき、そこで大学の研究内容や大学生等が住民と共に学ぶような多目的なスペースを提供する。

図中の●はセンターを表す。

Center is



CENTER is

このセンターには活動・生活・商業の3つの要素をもたせる。

《活動の要素》

住民や学生が学習・作業をする場や、その成果品の展示するスペースとして活用する。

《生活の要素》

学生用住宅として活用したり、近隣に住む学制的ライフサポートの場として活用する。

《商業の要素》

住民と学生ともに利用できる食堂や、学生のバイトのできる店舗、コンビニなどとして活用する。

Zoning

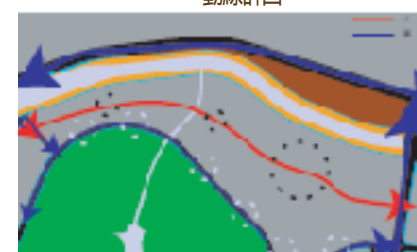
ZONING

大学を中心に、それぞれの地域の特徴をもったセンターを配置していく。今回は学研都市の入り口にもなっており、土地の起伏がある地域を選択し、地形を活かしたプランを考える。

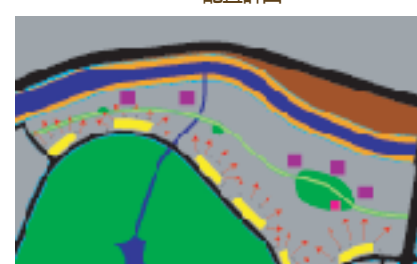


Plan

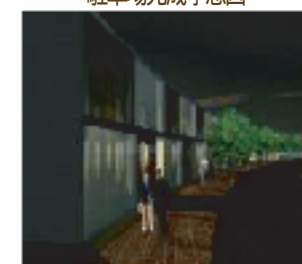
動線計画



配置計画



駐車場完成予想図



PLAN

動線計画:

まず、住宅地とセンターの関係やセンターと他住区のセンターとのつながりを考えながら動線を計画した。

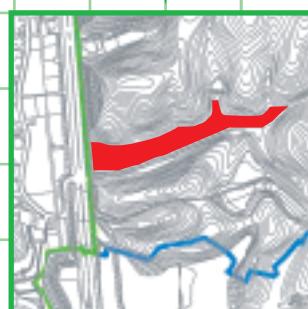
配置計画:

センターの位置は土地の高低差があるところの中心あたりに配置し、公園のような要素も折り込んでセンターより高い位置に家族向けの住宅を配置して公園で遊ぶ子供達を見守れるように、センターより低い位置に大学生用のアパートを配置して、住宅の中を歩いてアパートまで行くような動線にすることで、その途中で出会う住民との交流が生まれやすくなった。また、車は住宅地の中には入れないようにし、共用の駐車場にすることにより、起伏のある自然な地形をあまり崩さなくて済む・安全でフェイスtoフェイスの関係が生まれやすい・環境により・住民が自分達の使いやすい安全な歩道をつくっていけるなどのメリットが得られる。

- 公園
- 家族向け住宅
- 駐車場
- 車道
- 歩道



～ 自然との共生 ～



問題点

- ・ 侵食されつつある自然
- ・ 人々が活用していない自然



自然を取り入れたさまざまな
ライフスタイルが存在する住宅地



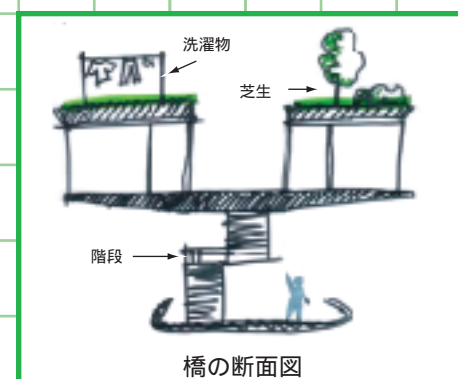
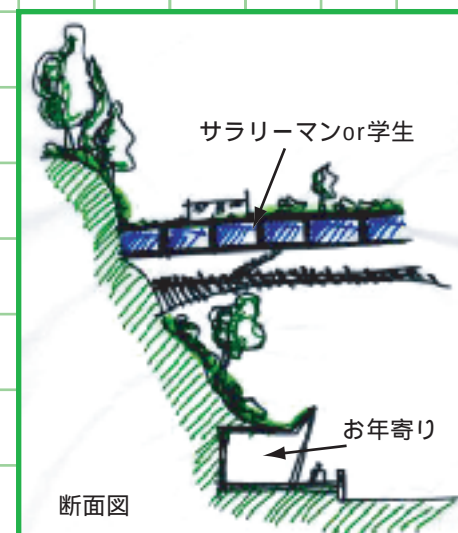
さまざまなライフスタイルとは...

年齢・職業・生活スタイル など

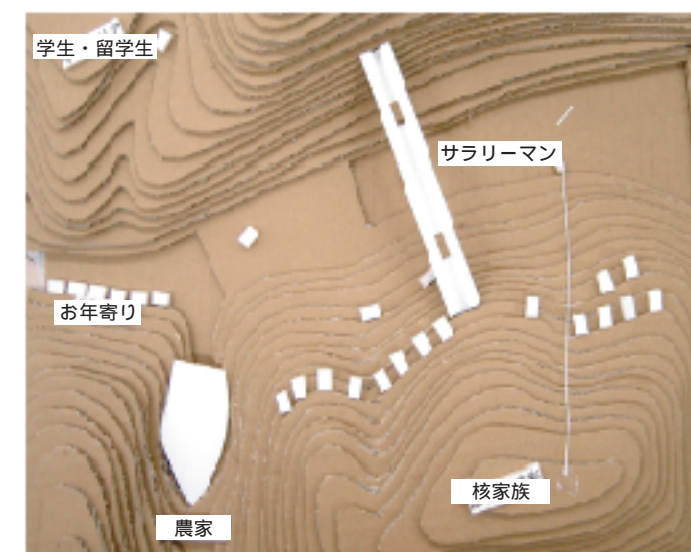


サラリーマン・核家族・新婚・農家
学生一人暮らし・留学生・お年寄り など

この敷地は山と山に挟まれた谷間にあります。さまざまなライフスタイルを楽しめる住宅地のあり方なのでいろいろと高低差があるほうが区別しやすく、おもしろい住宅地が提案できると考え、この敷地を選びました。



配置図



お年寄りやみんなが集まる公共スペースが一番低く、敷地の中心になるように、斜面には核家族を持ってきて斜面で子供が遊べるように、学生の一人暮らしやサラリーマンは一人暮らしなので連帯感を持てるように上下でセットにして配置しました。またその一人暮らしの住宅が谷にかかる端の役目をしており、反対側の留学生達の住宅に行き来ができるようになっていきます。また橋の上には芝生を敷き、洗濯物を干したり、夏はバーベキューを楽しんだりできるようにしました。

level=0m	共有スペース・お年寄り
level=0～8m	農場
level=3～8m	核家族
level=14～18m	一人暮らしの学生
level=20m	サラリーマン

まとめ

子供を怒れるお年寄り
遊び仲間としての子供と大学生
一人暮らしの学生と核家族の交流
单身サラリーマンとお年寄りの助け合い

テーマ：江川の保全をまちづくりに活かすには

温故江新 ーふるきをたずねて新しき江川をつくるー

egawa...is the river surrounding Science and Research Park

現地調査により私たちは江川周辺の竹、汐分地蔵、汐分橋、湿地など古くから伝わるものに魅力を感じた。これらはなくしてはいけないものであると感じ、その要素を生まれ変わる江川に取り入れたいと考えた。



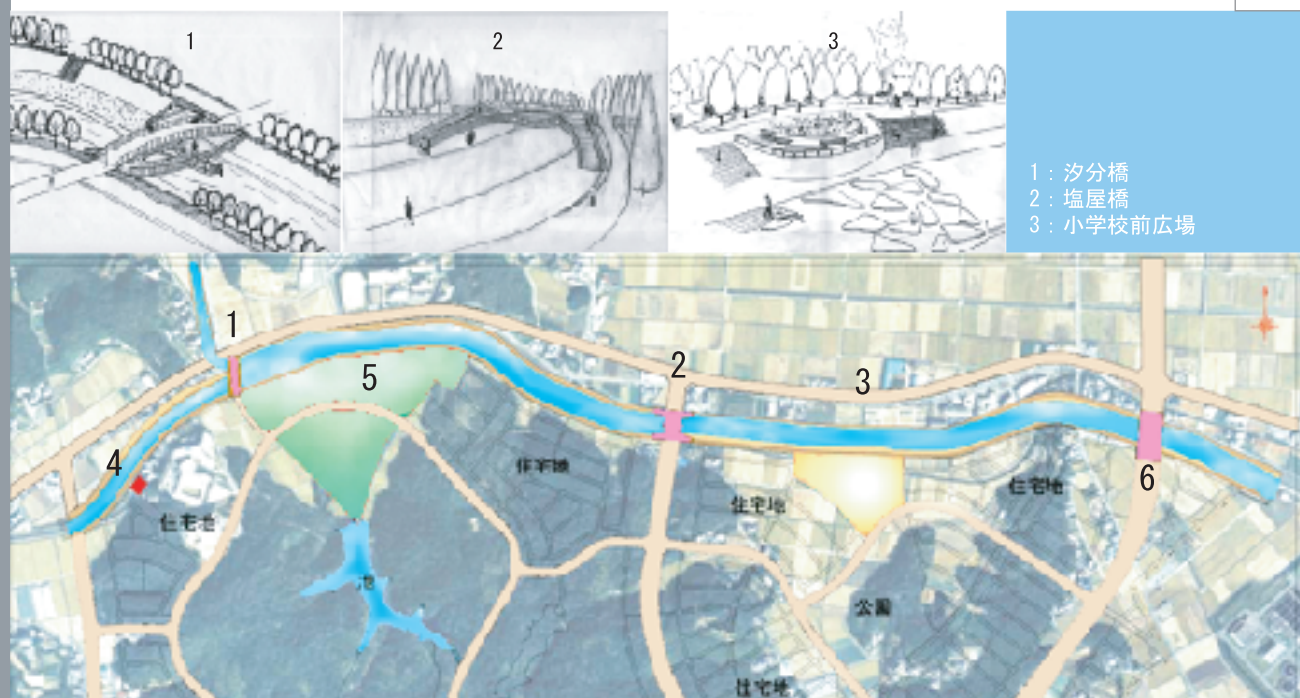
more about egawa

江川は世界でも珍しい感潮河川である。感潮河川とは潮の満ち引きで水位が変わる川のことをいう。また、洞海湾と遠賀川河口につながっておりその水質は海水に近い。そのため、河岸には植物が育ちにくい。

theme：江川の整備を学研のまちづくりに生かすには
key point

- 江川と学研の関わり方
- 周辺住民や学生の憩いの場
- 住民を巻き込んだ維持管理
- 世界に一つの感潮河川

image 江川に魅力のあるポイントを設けることにより、人の回遊性をもたらす



1：汐分橋
2：塩屋橋
3：小学校前広場

4：汐分地蔵前
5：湿地公園
6：12号線橋



笑っていいとも。(こらえて！)

小野良介
川村真理
住吉 徹
竹原幸希
弘重友就

深水佐代子
野原 春花
春田 佳菜
嶺岸 超宏

conclusion

キーワード

竹
里山
感潮河川
汐分橋
汐分地蔵

このキーワードをもとに
江川を 愛着 の持てる川にする

・
・
・

楽しさ
美しさ
にぎやかさ
気持ちよさ
親しみやすさ
懐かしさ
安らぎ

江川を整備
改修するにあたって

河川の美化活動に参加できる空間
感潮を実際に体感できるモノ
ソフト面での提案
人が滞留できる場所

・・・を考えていこう!!



具体的な案

ソフト面の提案
竹炭ワークショップ
ゴミ拾いイベント

ハード面の提案
湿地公園
小学校前遊び場

里山保全のため竹を切り、その竹を竹炭にして江川に沈めその浄化効果を利用して江川をきれいにしようというWS。
竹炭は空気に触れることでその効果を持続できるので、定期的に沈めた竹炭を取り替えることでWSを半永久的に続けることを目的とする。
WSを通じて周辺住民と学研利用者の交流を促す。

2

4

小学校へ行こうコース

里山散策コース

江川まるごとフルコース!

海水が流れている江川は昔から農業を営む人々から嫌われた存在だった。しかし私たちの提案により、江川が人に好かれるような存在になることを期待したい。そして、ゴミを投げ入れる事なんて出来ないような大切な存在になって欲しい。

川を汚すのも人。川をきれいに
するもの人なのである

最も身近な川として、学研利用者をはじめ周辺の人たちが協力してこの川を守ることで「カタチ」だけではないまちづくり、つまり人の心を巻き込んだまちづくりができるのではないだろうか

あなたもデートコースとして
江川を利用してみませんか。



team waratte iitomo
(koraete!!)

テーマ：緑と湿地によるランドスケープづくり

コンセプト

自然を残す

Preservation of the Nature

江川と大学をつなぐ

Connection: Egawa Univ

生態系を活かす

Provide habitat

人々の交流

Place for interaction

私たちは、学研都市周辺地域において現在残されている自然を最大限に活かし、更に有効活用することを念頭にコンセプトを考えました。大きなコンセプトは上記の「自然を残す」「江川と大学をつなぐ」「生態系を活かす」「人々の交流」の4つとし、それぞれにおいて提案を行います。

湿地の再生

湿地の役割

水の貯蓄

Collect Rainwater

洪水の防止

Prevention of Flood

水の浄化作用

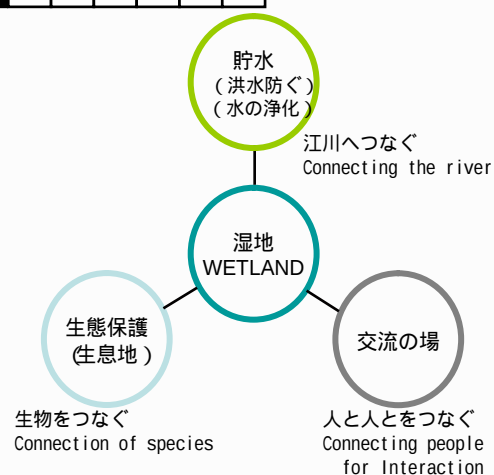
Purification of Water

生物の生息地

Habitat of Living things

開発による里山の消滅により生命体が危機にさらされています。そこで開発による影響を軽減し生態系を保護するために湿地を用います。

WETLAND



残されている自然の保全



↑ 現在生息しているヘイケボタルなどの生態系を活かす

→ 繋がっていない江川と大学のつながりをつくる



Image of wetland

遊歩道の計画

森林を体験する

Experience in the Forests

木材の再利用

Recycle of Wood

自然にやさしい道づくり

Corridors

コンセプトに掲げた4つの要素をボードウォークの設置により実現します。ボードウォークに用いる木材は、学研都市の開発で伐採した木材を再利用します。またメリットとしては、現在存在する木々を伐採することなく、避けて道を建設できる点があります。そしてボードウォークのみではなく各ポイントに休憩所を設置し、自然を見たり、聞いたり、感じたりすることができるようにしてあります。休憩所は、山の奥に進むほどデザインが抽象的になり、自然に回帰していく雰囲気演出しています。

まとめ

湿地の再生による環境保全

Environmental Preservation by the Wetland

自然貯水機能（江川への負荷の軽減）

Mitigation of Load to Egawa

ボードウォークを用いた環境教育の場

Environmental Education by the Boardwalk

人々の交流の場

Community for Residents

今回のワークショップにおける提案として「湿地の再生による環境保全」「自然貯水機能」「ボードウォークを活用した環境教育の場」「人々の交流の場」の4つの提案を行いました。上記の写真は完成イメージ図です。自然を保全しながら、小さな子供からお年寄りまで楽しみながら自然を体感することができます。

今後の課題

維持管理

Maintenance Management

交流の“場”作り

Community

今後の課題としては、維持管理の問題とここが交流の場となるように、様々なイベントや企画を行ってあげられます。

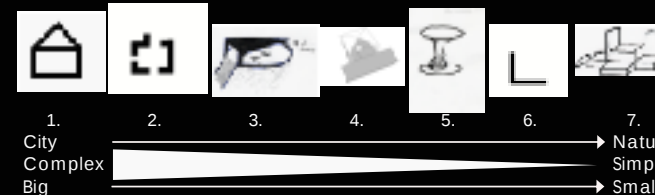


池田 尚子 徳田 勇貴
牛島 祐一 永野 晴美
城戸 祐一 藤田 悠
倉掛 健寛 Vera Oppolzer
肥塚 祐美子 山崎 美里

PIRATES

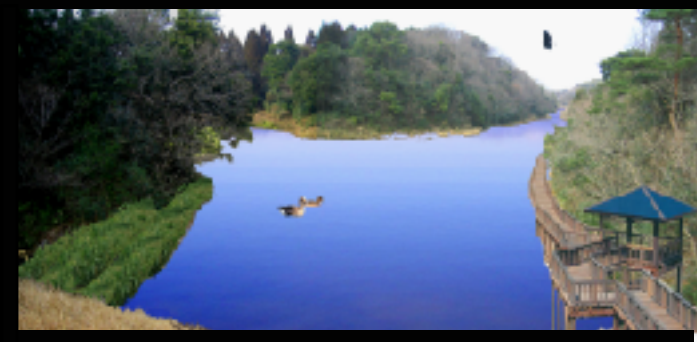
Different Habitat

1. Edge Habitat
2. Forest destroyed new Bamboo
3. Deep Forest
4. Pond, Deep water area
5. Grassland Habitat
6. Wetland Habitat
7. Salty wetland



1. City Complex Big

2. Nature Simple Small



↑ 湿地再生を行った後のイメージ図

↓ 湿地再生を行う前のイメージ図



Before



After

↑ 完成イメージ図



上：湿地上のボードウォーク
中：森林内のボードウォーク
下：湿地沿いのボードウォーク

← 交流の場として利用され地域交流の拠点としていくことが今後の課題

Participant's Voice

参加者の声～アンケートより～

ワークショップ開始前

北九州学術研究都市について

1. 北九州学術研究都市（以下、学研都市と略します。）を知っていましたか。
2. 学研都市に來られたことはありますか。
3. 学研都市の第一印象について
4. 学研都市に求めるイメージは何ですか。
5. 学研都市は、現在も整備事業が行われていることを知っていましたか。
6. 整備事業は、土地区画整理という手法により進められていることを知っていましたか。

参加者

ワークショップの参加について

1. 開催をどこで知りましたか。
2. 参加の動機
3. これまでのワークショップの参加回数
4. ワークショップ開催のスタッフの段取りについて

ワークショップ終了後

北九州学術研究都市について

1. 学研都市に滞在して、印象として一番残ったこと
2. 今後、学研都市に付加すべきもの

参加者（ワークショップ開始前）
配布数62 回収数33

参加者（ワークショップ開催後）
配布数62 回収数32

シンポジウム聴講者
配布数102 回収数37

ワークショップの内容について

1. ワークショップのテーマ
2. 会場
3. スタッフの動きや運営
4. 参加者への対応
5. 講師の方の参加者への対応
6. 作業
7. 自分の意見が言えたか。
8. 今回のワークショップに参加して良かったと思いますか
9. 次回の開催があれば参加したいと思いますか
10. 今後どのようなワークショップのテーマを希望しますか

シンポジウム
聴講者

北九州学術研究都市について

1. 北九州学術研究都市（以下、学研都市と略します。）を知っていましたか。
2. 学研都市に來られたことはありますか。
3. 学研都市の第一印象について
4. 学研都市に求めるイメージは何ですか。
5. 学研都市は、現在も整備事業が行われていることを知っていましたか。
6. 整備事業は、土地区画整理という手法により進められていることを知っていましたか。

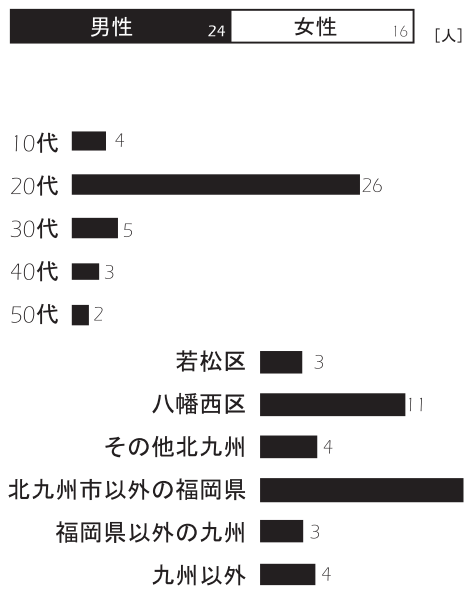
シンポジウムについて

1. 開催をどこで知りましたか。
2. 来場の動機
3. ワークショップ成果発表について
4. 基調講演について
5. パネルディスカッションについて

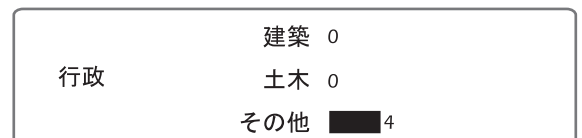
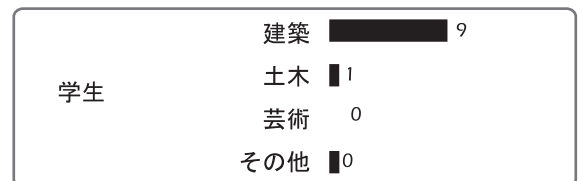
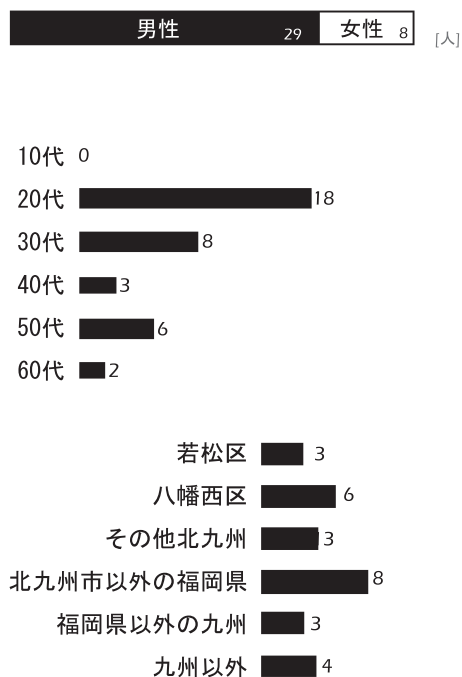
参加者はこのような人達でした

ワークショップ参加者は大学生が大多数を占めていました。シンポジウムの聴講者は、北九州市民だけではなく他県からも、様々な年齢層の方がいらしたようです。

参加者



シンポジウム 聴講者



学 研 都 市 に つ い て

1. 北九州学術研究都市（以下、学研都市と略します。）を知っていましたか。

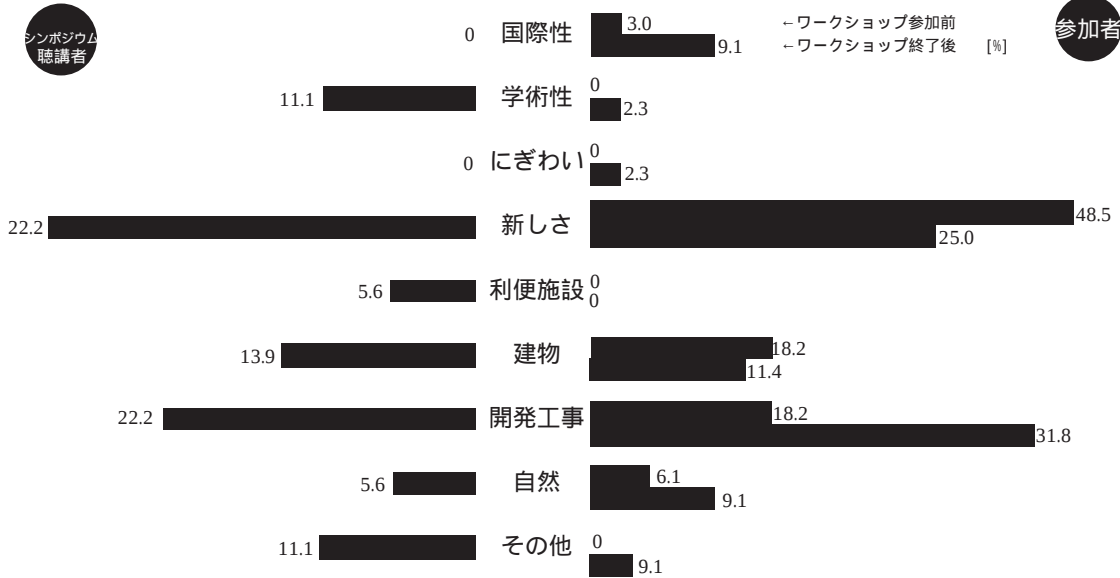


2. 学研都市に来られたことはありますか。



3. 学研都市の第一印象について（参加者：初日、シンポジウム聴講者）

4日間学研都市に滞在して、印象は変わったか。（参加者：最終日）



ワークショップ参加者もシンポジウム聴講者の方にとって、「新しさ」が目をはいたようですが、4日間滞在中で、「開発工事」や「自然」が印象に残った参加者が大幅に増えています。

- 国際性

 - ・外国の人々と毎日かかわっており、日本人とは違った国際的な考え方を知る機会があった。
 - ・外国の人が多いから。
- 学術性

 - ・多くの大学や研究機関が立地している。
 - ・数多くシンポジウム、研究発表会が行なわれている。
- 新しさ

 - ・開発途中ということもあって、空地も多く、施設全てが新しい。
 - ・建物の設計が新しい。
 - ・街並や構想から他に無い「新しさ」を感じた。
 - ・建物のデザインがシンプル、土地にマッチしている。
 - ・建物、建物のデザイン、街並が新しいので。
 - ・その地域にだけの都市形態から。
 - ・大学を中心に都市を活性化する試みは非常に興味深く、新鮮に感じられた。
- 利便性

 - ・地域住民が気軽に利用出来る様にしてほしい。
- 建物

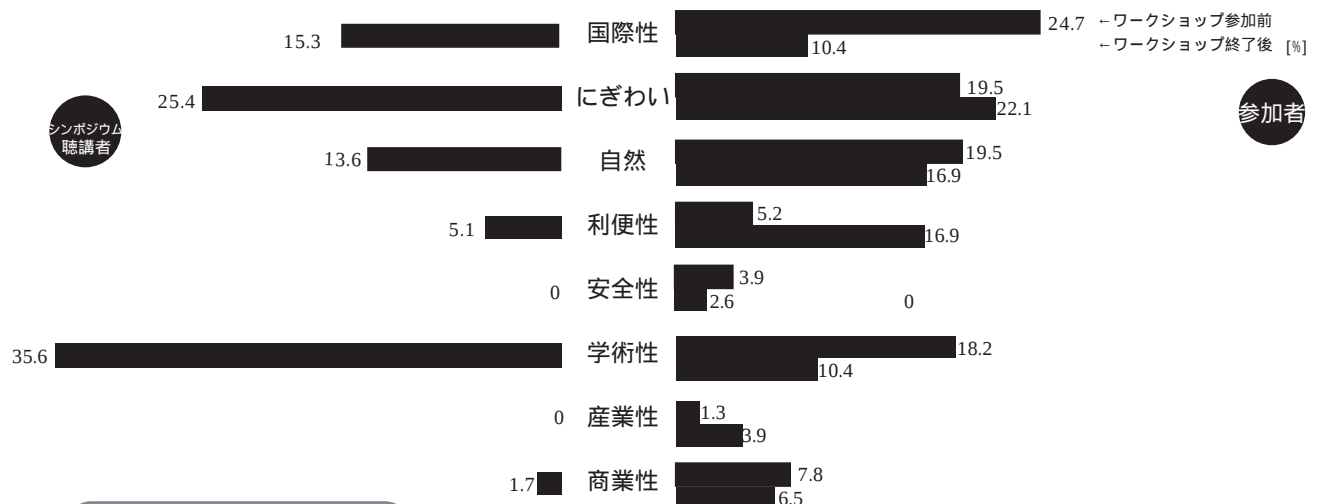
 - ・設備がすごくいいので。
 - ・建物全てきれいで、ここに通っていたら刺激があつて勉強になる。
 - ・機能とデザインに取り組んだ建築とランドスケープされた空間が連立しているような場所はあまり無いから。
 - ・整備はされているが、花や街路樹が少なく、冷たいイメージだった。
- 開発工事

 - ・山が削られ、自然が荒れているから。
 - ・整備が進んでおらず、まだ完成されていないので。
 - ・新しい建物がどんどん建っていくから。
 - ・一見新しさがあつたが、開発途中の所があつたり、北九大が休講の時は人が殆どいない。
 - ・まだ地域との密着性が低く、都市としては成立していないという感じを受けた。
 - ・人がいなく寂しい印象を受けた。
 - ・建物きれい過ぎる感じで閉じた印象を持った。
 - ・まだまだ開発途中、建設途中という印象が強い。
 - ・むなしさを感じた、山を削りすぎた。
 - ・日中の開発が目につく。
 - ・工事ばかりなので周辺環境から浮いている。
 - ・開発のスケールに驚愕した。
- 自然

 - ・敷地内に開放的な空間があつた。
 - ・まだ交通量が少なく、虫も山も多く、空気もきれい。
 - ・新しさ
 - ・開発工事が多く施設がきれい
 - ・身近にない空間に触れ合えた

4. 学研都市に求めるイメージは何ですか。（参加者：初日、シンポジウム聴講者）

今後学研都市に付加すべきものは何だと思いますか。（参加者：最終日）



4日間学研都市で生活した参加者からは、にぎわいや利便性などを付加すべきという意見が多く得られました。JRの駅から離れた丘の上にある立地や、店舗の少なさから利便性に欠けると感じた人が多かったと思われます。また、大学が春休み中だったことで、学生が少なかったことも、「にぎわい」の回答に影響しているでしょう。

- 国際性**
- ・今は大きく取り上げている割には実際に感じられない。
 - ・九州の玄関口として簡単にこれる利点を活かし、二を
利用した大きな仕事、学習の場を限られた範囲で作れ
ると思う
- にぎわい**
- ・学内部以外の賑わいがない。
 - ・活気のない都市は魅力がない。防犯上も良くない
 - ・空間的な賑わいを作りつつ、自然を取り入れるべき
- 自然**
- ・先進的なものより、自然との共生を実現したまちづく
りの例となる都市に。
- 利便性**
- ・人を呼ぶ魅力は自然を活かしたほうがいいのではないか。
 - ・生活面での水準を向上しないと今のままでは不便すぎる。
 - ・特に食事当の施設の不十分さが目立つ。
- 商業地域**
- ・学生が使用できるような商業地域が全くない。
- その他意見**
- ・福祉については何も聞けなかった
 - ・観光地的土地には利便性、交通網の問題が一番重要で
はないだろうか。
 - ・住民と学生の連携が町を活気付けさせる

5. 学研都市は整備区域を3期に分けて整備を進めています。現在も事業が行われている事を知っていますか。

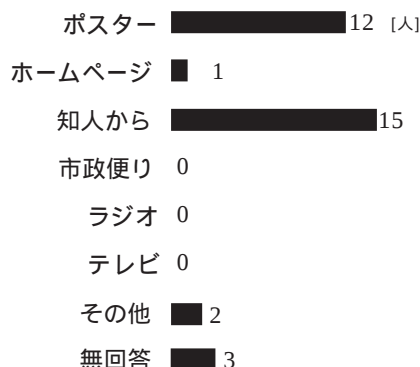


6. 学研都市事業は、地権者との協議を重ねながら土地区画整理という手法で進められている事を知っていますか

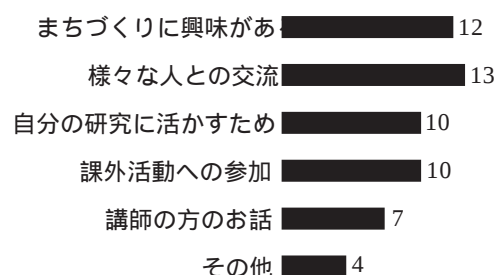


ワークショップの参加について

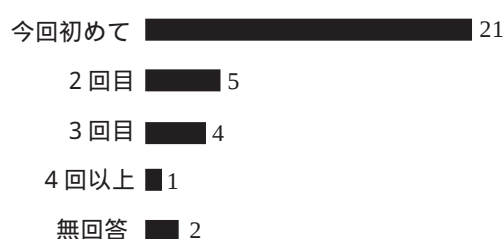
1. 開催をどこで知りましたか。



2. 参加の動機についてお答えください



3. ワークショップに参加したことがある回数は？



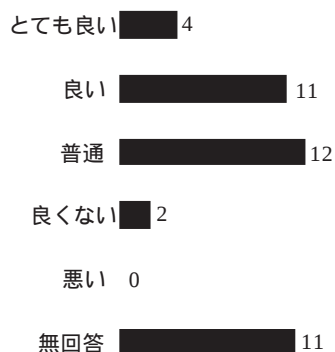
ワークショップの内容について

1. ワークショップのテーマ



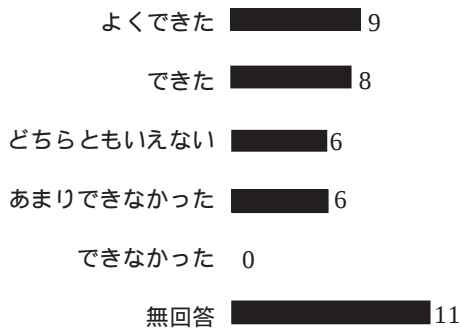
- (よかった点)
- ・身近なところなので面白かった。
 - ・建築以外にも大切な場所について考えさせられるテーマだった。
 - ・進行途中の開発のテーマなので、色々な事を考えさせられた。
 - ・現実味があり、刺激的なテーマ。
 - ・様々なテーマが最後には一つとして関係している所が面白い。
 - ・都市と江川を活かすテーマは面白い。
 - ・周りの環境について、深く考えさせられた。
 - ・4つのテーマが個性的だった。
 - ・学研都市ならではの面白かった。
 - ・規模が大きい。
 - (改善すべき点)
 - ・重なる所が多く、明確に答える提案はしづらかった。
 - (提案)
 - ・テーマを大きく一つにして自分達でテーマから作ってみてはどうか？

2. 会場はどうでしたか



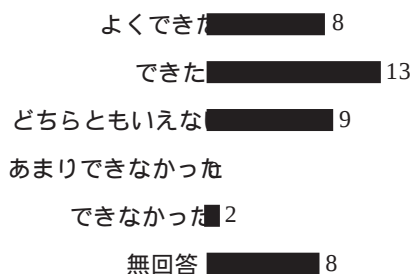
- (よかった点)
- ・楽しい雰囲気だった。
 - ・施設から新しくきれい。
 - ・こんな校舎が良い。
 - ・居心地がいい。
 - (改善すべき点)
 - ・作業ブースが狭い。
 - ・時間制限がきつい(何に対しても)。
 - ・ご飯を食べるには不便。
 - ・プレゼン会場、パソコン等良かった。
 - ・宿泊は安価で良いが、不便。
 - ・コンビニから遠い、バス停から遠い。

3. 作業は納得いくものでしたか。



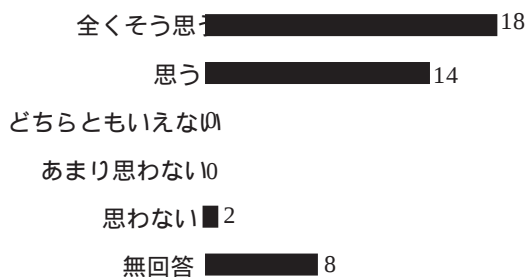
- (出来た)
- ・実現可能な案を提案できたのではないが、今後の活動に役に立つと思う。
 - ・まとまりのあるチームで少しずつディスカッションしながら作り上げたのでまとまりのあるチームで面白かった。
 - ・課題はたくさん残ってはいるけれど、今回は十分な結果が出せたと思う。
 - ・出来る限りがんばった。
 - ・出来なかった
 - ・Power Pointの画像がうまくいかなかった。
 - ・時間の割にはまとまったが、学問的、建築的な面まで突き進めなかったのが心残りだ。
 - ・初めてのワークショップで戸惑いがちだった。
 - ・しつかり自分の意見を持ちたいと思った。
 - ・時間があまりにも短かった。
 - ・チームで行うことは難しく、納得いくまで出来なかった。もっと良いものを作りたいという気持ちが強かった。
 - ・話し合いについていけなくて迷惑をかけた。
 - ・提案のみで終わってしまった。
 - ・知らない人との作業は難しさを感じる。考えたことをうまく表現するための話し合いも十分に出来なかった。
 - ・理屈は整理できたが表現しきれなかった。

4. 自分の意見が言えましたか。



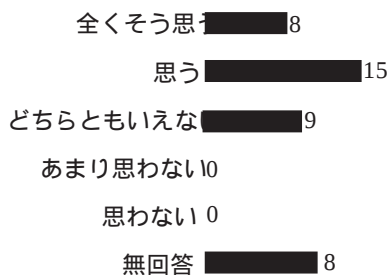
- (言えた)
- ・思ったことは何でも口に出していつてみた。
 - ・言っただけ時には衝突することもあった。
 - ・簡単な意見しか言えなかった。
 - ・学生と言う同じ立場だったので自由に討論しあえた。
 - ・言えなかった
 - ・もっと時間と経験があればもっと良い議論が出来たのではないだろうか。
 - ・1つ1つをじっくり考える時間がなかったのだから自分のアイディアを整理しないでそのまま口から出てしまった。
 - ・他人の意見を聞くのでいっぱいだった。

5. 今回のワークショップに参加して良かったと思いますか。



ワークショップへの参加が初めてという参加者が多い中で、4日間で提案をまとめる難しさを感じた人が多いようですが、「自分の意見を言えた、良い議論ができた。」という人も多く、今回のワークショップに対し、満足感を得た人が多いことが分かり、私たち主催者も嬉しく思っています。私達スタッフの不手際で参加者の方には迷惑をかけたことも多かったと思いますが、次回行う際には、もっと作業面やテーマも工夫し、良いものになるようにしたいです。参加者が1回の参加で満足感を得るだけでなく、学研都市のまちづくりに生きていくようなワークショップを継続していきたいですね。

6. 来年以降、学研都市であれば参加したいと思いますか。



7. 今後どのようなワークショップのテーマを希望しますか。

- ・新北九州空港の周辺地域について
- ・産業を誘致、創出するのであれば、企業も学生も互いに相乗効果を持てる関係になるための話し合いを行いたい
- ・ものを実際に作り上げるワークショップを行いたい
- ・環境、技術、福祉等の連携について
- ・都市計画関係、建築理論関係
- ・ストック型建築
- ・今回のつづき
- ・様々な場所を選択し、あわせると一つになるようなテーマ
- ・一つのテーマから、異なった提案、プロセスを見て取れるようなもの
- ・深まりのあるものならどんなものでも

8. 今回のワークショップで気づいたこと、意見、希望等

(感想)

- ・初めてだったが非常に楽しめた。また参加したい。
- ・地元、九州の参加者が多く、具体的な意見が聞けてよかった。
- ・以前にイベントを実行したことがあるが、今回のスタッフは非常に優秀で、活動しやすい場面を常に提供してくれていた。
- ・1日間でよかった。また参加したい。
- ・他大学の人の意見はとても参考になった。
- ・一般の方の参加はいいアイデアや助言を得ることが出来、とてもよかった。
- ・他国の人々のまったく違う視点が面白かった。
- ・コミュニケーションが容易でない状況で意見を伝えることは容易な場合よりも論理的に考える必要があった。

- ・学研都市のあり方に改めて気づかされる点が多かった。
- ・短期間での作業では言葉の壁のハンディは差が大きかった
- ・材料が少なく、模型作りがしにくかった。
- ・PC環境がよくなかった。
- ・期間が短い。
- ・与えられたデータではなく、自分たちでもデータを取るべきだと思った。
- ・情報の取り方にもっと工夫があるべきではないだろうか。
- ・一般の方の途中からの参加は、作業をストップさせるため、やりにくかった。
- ・地元のことなので諦めがあり、超現実主義になりがちで、一般的な提案の域を超えられなかった。
- ・自分の力のなさを感じた。

(意見)

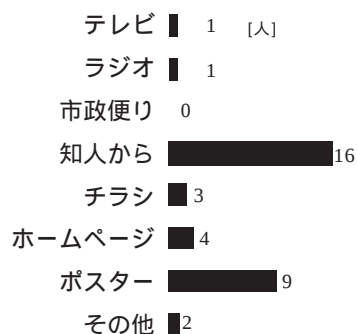
- ・他の地域の参加を促すためにもっと早い時期から告知をすべきだと思う。

(希望)

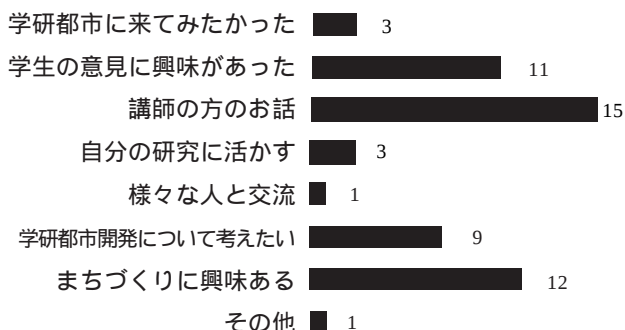
- ・ワークショップで出た意見が今後の開発に少しでも活かされることを望んでいる。

シンポジウムについて

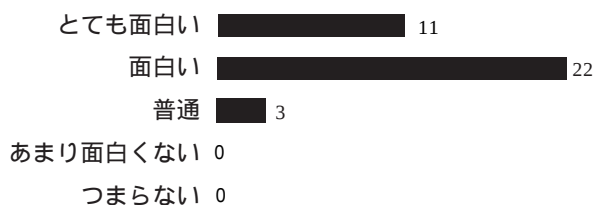
1. シンポジウムの開催をどこで知りましたか



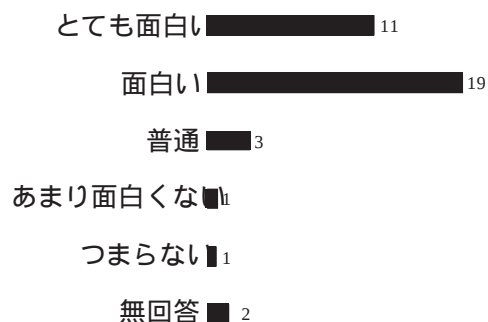
2. 来場動機を教えてください



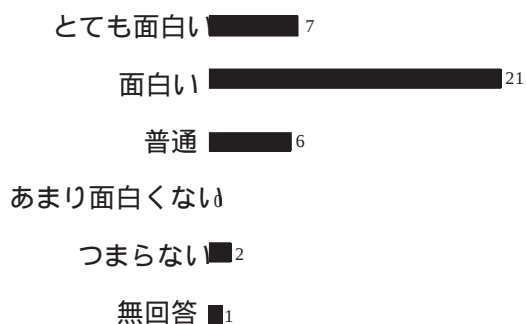
3. ワークショップの発表会はいかがでしたか



4. 基調講演はいかがでしたか



5. パネルディスカッションはいかがでしたか



シンポジウム、ワークショップ発表会には、100名を超える方の来場がありました。雨の中、ご来場いただきありがとうございました。時間の都合上、時間があまり無く、来場者の方のご意見を頂き、議論を行う時間が取れなかったことが残念でした。次回への課題です。

- ・大学が発信し継続することの大切さがわかった。
- ・学生の研究に対する意識の高さとパワーに感心した。
- ・学生の発表会は、とても興味深い発想等があり、面白かった。
- ・ワークショップの完成度が高く、刺激になった。
- ・講師の方々の話聞けてよかった。
- ・学生は短期間でよくまとめていたと思う。
- ・ひびきのならではの街づくりの蓄積は、これからの十〜二十年後にとっても価値があると思う。
- ・地域性という大事さが改めて考えさせられた。
- ・理想と現実のギャップをどう調整するかが難しい。
- ・パネルディスカッションや講師、市民の意見の時間がほしかった。
- ・講師に、住民代表を数人入れた方が生々しい講演が出来たと思う。
- ・これから何らかのワークショップがあれば、参加したい。
- ・この新興都市で、住民と大学が一体となる事を強く望む。
- ・ぜひ来年度も実施してほしい。